



学内学会会報 第28号

総会後の特別講演会

松田妙子氏「支援の受け手が支え手にもなる地域社会 ～子育て支援の実践現場から～」に寄せて

塩原 柚紀 (社会学科2年)

西岡 晴菜 (社会学科2年)

2018年6月16日に第28回社会学部学内学会総会が行われました。総会後の特別講演会では、卒業生部会企画担当の堀込伸一氏のご紹介で、本学社会福祉学科卒業生の松田妙子氏をお迎えし、講演会をして頂きました。講演のテーマは「子ども・子育てを支えるプラットフォーム～住民の協働を力として～」でした。松田氏は社会福祉学科を卒業後、渋谷にあった児童館、こどもの城で「人と関わって遊ぶ」部署で働き、1998年夫の勤務先の三重県津市で、第一子が5ヶ月の時、ママの部屋「赤ちゃんサロン」を開き、産前・産後の赤ちゃんがやってくる前と後の支援をされていました。その後、子育てにはネットワークが必要だと考えるようになり、2001年に世田谷で産前産後支援を始められました。その支援の一つとして、世田谷区にはさんさんサポートというものがあります。さんさんサポートとは、子どもたちの健やかな成長を願い、子育て家庭の産前産後の負担を軽くするため、松田さんのような子育て支援ヘルパーを派遣するというものです。世田谷区では母子手帳とともに、三回無料で訪問してくれるチケットを配布しています。

子供に関する政策は子ども子育て会議で話されていますが、ほとんど保育のことが中心になっているのが現状です。それゆえに、子育てをしながら家庭内の防災はどうなっているのかなど話し合う場が必要だと考え、区民版子ども子育て会議を松田さんは設置しました。会議というものは役所の中だけでやりがちです

が、区民版子ども子育て会議は実際に子どもをもつ母親や仕事帰りの父親、行政の役員などさまざまな人が集まって行われています。

おでかけひろばという地域子育て支援



松田 妙子氏

拠点、いわゆる共同養育の場があります。このひろばには子どもと親が集まります。地域一体となって子どもも親も共に成長することができるのです。また、ここで保護者同士や地域の繋がりが生まれ、子育てのしやすい町を作ることができます。

ハッピーセパレーションという、保育園の月齢期ではない子どもを持つ母親達が、子どもから離れる時間を確保するための一時預かりをする取り組みがあります。母親達は、子どもを預ける時に「ごめんね、ごめんね」と言いながら預けていきますが、子ども達にとっては地域の人々と関わることのできるよい機会でもあります。そのため、この取り組みは積極的に推奨されています。子育てはひとりで頑張るのではなく、いろんな人に関わってもらうことが子育ての大事なところであると松田さんはおっしゃいます。子ども達にとっての環境は保護者ですが、その環境を守るためにも地域が保護者達を支えていくことも重要です。

その仕組みを構築するためにも、地域と保護者の間に松田さん達の様な方々が入り、地域のサポート体制を整えていくことが大切なのです。子育てをする人達に、子どもを預けること、周りを頼ることは悪くないと言うことは簡単ですが、それに根気強く付き合ってくれる人がいないと頼ってみようという気持ちにはなることができません。

赤ちゃんとのふれあい授業は、地元に住む子どもを持つお母さんに協力してもらい、中学生の授業の一コマで赤ちゃんとおふれあう機会を作るものです。この取り組みを始めたのは、現代では自分が生んだ赤ちゃんが初めて抱く赤ちゃんであるという人がほとんどであることから、中学生で一度赤ちゃんがいる環境というものを体験してもらおうというものです。この取り組みは、参加した中学生にとってはもちろんであるが、協力してくれる母親にとっても利点があるといえます。普段町では冷たい視線で見られることが多く、子どもを持っていることに対して否定的な考え方で見られることが多いために、いつも「すみません」と言っているにも関わらず、ふれあい授業に協力することで子どもがいることに肯定的になれることが、母親にとっては救いとなっています。授業を通じて様々なプレッシャーがかかっている中学生に対しては、地元の人々も応援しているということを伝えることができることから、次の世代のために何かすることが大切であり、この関係を続けていくことが重要であるということが言えます。

また、育てられる側から育てる側へと変わっていく過程というのは大変難しいものですが、その移行期にあたるティーンエイジャーが置かれている状況は大変お寒い状況となっています。地域が彼らをどのように支えていくかというのはとても難しく、特に義務教育を終えたティーンエイジャーを支えることが難しいのです。区民版子育て会議の若者版を開いたときに、若者から今はお金がないと過ごせる場所がないという意見が出ました。その状況を変えるために、青少年交流センターが2019年にオープンする予定であるなど、様々な取り組みが行われています。

松田さんは以前国土交通省で開かれたベビーカーの

利用に関する協議会に参加し、そこでベビーカーが利用できることを示すマークの制定に携わられました。そのマークを以前のもので変え、ベビーカーを押す人を中性的な絵に変更したり、ベビーカーが利用できないことを示すのではなく利用できることを示す形への変更を依頼しました。これは電車に乗ることが必須となっている今の社会において、子どもを育てる人々にとっては大きな前進となるであろうし、ベビーカーが堂々としていられる社会では、車いすの人も堂々としていられる社会が作られていくことにも繋がります。車いすの団体とは異なり、子育ては通りがりの経験であるために継続的に声を上げることができないことと、それぞれの子どもにとっての問題が異なることも、子育てに関する問題に対する当事者達の声が届かないことが、問題視されます。

以上のように子育てに関してだけでなく、その他の分野においても当てはまることですが、当事者達に力があり資源を持っている、という自覚を持った上で取り組んでいくことが重要です。しかし、地域での営みはそうではなく、周りが小さなことに気付き、課題にばかり目を向けることなく「ありがとう」という言葉を言えるシーンを見つけるようにして、言われた人がまた違う人に「ありがとう」と言える環境を作ることが重要なのです。

そのようなまちをつくることができるようにするには、三つの機能が重要です。誰かと誰かをつなぐブリッジ機能、自分をわかってくれる仲間のようなアジャスト機能、受け止めてくれたり、跳ね上げてくれるトランポリン機能です。子育てで子どもを救うことが重要視されますが、子どもだけでなくその家庭全体を救うという姿勢が重要なのです。そのためにも私たちはできることから取り組んでいくことが大切になってきます。その家庭に予防的に関わり、日常的にその家庭を知ることや、モニタリング機能として直接的・間接的にその家族に関わり、小さな変化に気付いてあげることが大切なのです。

子育ては決してその家族の中で完結する必要はなく、地域の助けを借りていくことも大切だということはいまあまり浸透していなかったり、その環境が整備され

ていないのが現状です。松田さんのような取り組みをする人が増えていくことが、子育て世代にとっては救いとなるが、その助けを受けた保護者達がその後の世代に受け継いでいくことが重要です。今後この取り組みが慣習化するような世の中になれば、救える命が増えることは間違いありません。

2018年度 学内学会活動報告

★会報27号発行

5月22日(火) 発行部数 4,000部

★第28回総会・特別講演会・懇親会

6月16日(土) 総会：白金校舎3号館3202教室

懇親会：パレットゾーン2階「さん・サン」

学生16人、教職員10人、卒業生20人、一般5人、事務局1人の計52人が参加。総会後は、本学社会福祉学科卒業生の松田妙子氏を迎え、「支援の受け手が支え手にもなる地域社会～子育て支援の実践現場から～」について講演を行った。

★研究発表会

12月8日(土) 白金校舎本館1451・1455・1456・1458教室

発表は、ゼミ7件(社会学科ゼミ3件、社会福祉学科4件)。個人参加13件(社会学科1件、社会福祉学科0件、社会学専攻2件、社会福祉学専攻8件、卒業生2件、当日欠席1件)。研究発表会の参加者は、学生79人、教職員10人、卒業生9人、一般2人、事務局1人の計101人(発表者も含む)。今年も、4つの会場で活発な発表が行われた。



○第一分科会(1455教室)

「強制的不妊手術について伝えたいこと」

柘植あづみゼミ

「続 精神障害者の就業・生活支援」

今雪宏恵(17SWM)

「ソーシャルワーク実践における人権を基盤としたアプローチとは何か」

高木仁根(17SWM)

「戦後医療ソーシャルワークについて

～文献：中島さつき著『医療ソーシャルワーク』誠信書房、1975年。を手がかりに～」

倉持里江(18SWM)

「地域包括ケアシステムのレビュー」

山縣弘幸(18SWM)

「1990年代来日中国人の子どもたち ～ネットワークの中のエスニック・アイデンティティ形成史～」

李瑋莎(18RRM)

○第二分科会(1456教室)

「大都市におけるフードデザート問題の課題と提案」

浅川達人ゼミ

「地方都市におけるフードデザート問題について」

浅川達人ゼミ

「不完全な制度としてのステップファミリーの研究」

青葉由紀子(18SGM)

「現代日本におけるペナルポピュリズム ～新自由主義とルーマンのリスク論の交差～」

石渡拓也(2012年卒)

「研究ノート・日本禁酒同盟の関係資料調査による賀川豊彦の関わりについて(仮)」

和田淳一郎(2006年卒)

○第三分科会(1458教室)

「高齢者の貧困・孤立と養護老人ホーム」

河合克義ゼミ

「沖縄県における子どもの貧困の現状と取り組みについて」

河合克義ゼミ

「鉄道部門の女性現業労働者を取りまく諸問題 ～インタビュー調査から～」

小西輝(15SG)

「重度知的障害者の余暇活動としての運動支援」

松崎侑太郎(17SWM)

「寿地区における福祉の街への変遷について」

半田博美(17SWM)

○第四分科会(1451教室)

「日本に潜む身近な女性の不平等」 明石留美子ゼミ
「開発途上国の子どもたちとの遊びに関する研究」

明石留美子ゼミ
「生活困窮者自立支援法の就労準備支援事業における
自治体別の分析 ～実施の有無と委託先の検討～」

角田昌隆 (18SWM)
「児童養護施設における『安全委員会方式』の導入と課題」
藤本拓己 (18SWM)

「首都圏の避難者の主体回復の実践と被災者支援 ～原
子力被災者が経験したセルフヘルプ・グループ～」
松下雅明 (17SGD)

★卒業生部会・学生会合同企画 講演会「きっと就
活で悩み迷う君たちへ ～文系卒業生と考える21
世紀を生き抜く力～」

1月9日(水) 白金校舎2401教室にて開催され、約32
名の参加があった。講演者には、経済学部国際経営学
科卒業生の井上創太氏を迎えた。講演会后、パレゾン
にて懇親会を開催。

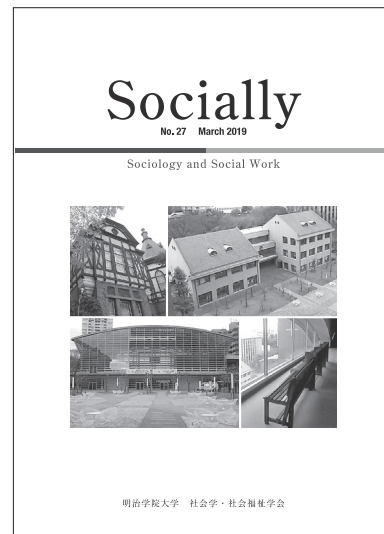


★卒業生部会企画 東京港醸造視察見学

3月7日(土) 卒業生部会役員4名が、名誉教授 河
合克義先生よりのご推薦を戴き、先生の授業であるコ
ミュニティ創生論でお世話になっている、卒業生が
オーナーであり経営者でもある、東京港醸造を訪問。
「江戸開城」の試飲、醸造所の歴史や再建時のエピソード
など、盛り沢山の内容を、一同、興味津々に聞き入
り、時間を忘れるほど愉しく、有意義な交流の時を
持った。

★Socially27号発行

3月20日(水) 発行部数 1,700部。



2018年度 学生会活動報告

★戸塚会議(春)(担当 清水江理・渋谷晶)

5月21日(月) 横浜校舎420教室にて開催。戸塚会議は
1年生を対象とした学内学会の活動内容を説明する企
画である。参加者は学生12人、学生会運営委員2人
の計14人。学生会に入るかを悩んでいる人が多かつ
た。また、12名全員が社会学科の学生であったため、
来年度は社会福祉学科への宣伝を強化する必要がある
という課題が見つかった。

★社会学科ゼミサロン(担当 佐藤楓・山本莉央)

10月9日(火)、11日(木)、12日(金)にゼミ選択の応援企
画として2年生対象のゼミサロンを白金校舎1551、
1552、1553、1554、1557教室の各教室にて昼休みに開
催。参加者は2年生81人、ゼミ生109人、計190人。

2年生が担当する初めての企画であり、今年は人数の
少ない中厳しい状況であったが3、4年生の学生会生の協
力もあり、無事に終了することができた。ゼミ選択に役
立ったという感想をいただいた一方、企画運営の反省
も多くあり、来年への教訓となることも数多くあった。

★戸塚会議(秋)(担当 清水江理・渋谷晶)

10月23日(火) 横浜校舎420教室にて開催。参加者は、
学生会運営委員2名、1年生9名(社会学科生8名、
社会福祉学科生1名)の計11名。そして参加者の1年

生のうち学生7名はその場で学生会への加入が決定した。

質問タイムでは、1年生の疑問や不安を解消させることができ、大いに盛り上がった。だが、上記のように社会福祉学科生の参加は社会学科生に比べて圧倒的に少ないため、社会福祉学科生にも関心を寄せてもらうにはどうすべきかを再検討することが今後の課題である。

★社会福祉学科コースガイダンス(担当 安田奈伎紗・亀山由香里)

11月8日(木) 横浜校舎421教室にて昼休みに開催。社会福祉学科の1年生を対象としたコースガイダンスを行なった。参加者は7名。本企画は、社会福祉学科が2年次よりソーシャルワークコースと福祉開発コースに分かれるため、コース選択に悩む1年生への手助けとして毎年行なっている。

パワーポイントを使用して、2年次の時間割モデルや実習分野、フィールドワークの紹介、ゼミの紹介など学生目線のガイダンスを行なった。今年度は参加者一人一人の疑問に答えることができた。1年生からも、「それぞれのコースについて知ることができてよかった」「2年次の時間割について知ることができた」「コース選択に生かしたい」等の高い評価をいただくことができた。

★上映会(担当 河野純夏・島香織)

12月20日(木) 白金校舎3202教室にて『私の中のあなた』の映画上映会を開催。

参加者は計12人(うち学生会委員6名)。

この企画は、上映会をきっかけに社会問題について考えてもらう機会になるよう、開催した。

当日は、映画を上映した後に、柘植あづみ先生にパワーポイントを用いた映画の内容と、内容に添った倫理的問題について、多角的な視点から考えさせられる解説をしていただき、映画に対する理解を深めることが出来た。

参加していただいた方の感想には、「またこういう上映会を開催して欲しい」「いままで考えることのない問題であったのでいい機会だった」との声を聞くことができた。

異動・消息

- 2019年3月 社会学科教授の渡辺雅子先生が退任。
- 2019年3月 社会福祉学科教授の清水浩一先生が退任。
- 2019年3月 社会福祉学科教授の八木原律子先生が退任。
- 2019年4月 社会学科に大久保遼先生が着任。
- 2019年4月 社会福祉学科に金子充先生が着任。
- 2019年4月 社会福祉学科に武川正吾先生が着任。
- 2019年4月 社会福祉学科に平澤恵美先生が着任。

学内学会 新体制

- | | |
|----------|---------------------------|
| 会長 | 柘植あづみ
(社会学部長・社会学科教授) |
| 副会長(主任) | 石原 英樹(社会学科教授) |
| 副会長 | 久保 美紀
(研究所所長・社会福祉学科教授) |
| 編集担当 | 安井 大輔(社会学科准教授) |
| 企画担当 | 高倉 誠一
(社会福祉学科准教授) |
| 会計担当 | 金子 充(社会福祉学科教授) |
| 卒業生部会委員長 | 麓 良久(1971年卒業) |
| 学生会委員長 | 塩原 柚紀(社会学科3年) |
| 事務局員 | 込宮美沙子 |

2019年度 学内学会活動予定

- 4月1日(月) 【学生会】新入生学科ガイダンスで広報(白金校舎)
- 4月23日(火) 【学生会】戸塚会議
- 5月22日(水) 会報28号発行
- 5月28日(火) 第1回合同役員会議
- 6月15日(土) 第29回総会・特別講演会・交流会
- 8月28日(水)・29日(木)
【学生会】夏合宿
- 10月8日(火)・10日(木)・11日(金)
【学生会】社会学科ゼミサロン

- 11月7日(木) 【学生部会】社会福祉学科1年生コース
ガイダンス
- 12月中旬 社会学部研究発表会
- 12月20日(金) 【学生部会】上映会
- 2月下旬 第2回合同役員会議
- 3月中旬 Socially28号発行
- 日程未定 【合同企画】社会福祉学科卒業生と在
校生の交流会
- 日程未定 【卒業生部会】横須賀基督教社会館見
学
- 日程未定 【卒業生部会】講演会

お知らせ

社会福祉学科卒業生からの国家資格について
の問合せは、学内学会事務局が、メールまたは
ファックスで受け付けます。後日、社会福祉学科
に問合せ、わかる範囲で回答いたします。

編集後記

会報28号をお届けします。今年の会報では、昨年度
総会後に本学社会福祉学科卒業生である松田妙子さん
より行われました特別講演会の模様を掲載しました。
会報の制作に携わってくださった全ての皆さまに心か
ら感謝申し上げます。

学生部会といたしましては、今年も様々な企画を予
定しておりますが、所属人数も増加し、より力を入れ
て役割を務めていきたいと思っております。皆様の温
かいご支援とご協力のほどよろしく願いいたしま
す。(学生部会編集長 社会学科3年 佐俣朱理)

連絡先：〒108-8636 港区白金台1-2-37
明治学院大学社会学部附属研究所内
明治学院大学社会学・社会福祉学会
E-mail shakaimg@soc.meijigakuin.ac.jp
会費振込先：郵便振込 00170 - 5 - 96903
明治学院大学社会学・社会福祉学会

※住所変更の際はハガキ又はメールでご連絡下さい。

第29回総会・特別講演会のお知らせ

本学社会学科で教鞭をとる坂口緑教授は、東京
大学での市民社会論研究にはじまり、現在は北欧
の生涯教育やボランティア活動論など、広範囲に
わたり研究をされています。

デンマークでは、1999年に統合法が成立して以
降、移民や難民の労働市場への参加を共通目標
に、語学教育にとどまらない生涯学習政策が展開
されてきました。本発表では、〈参加〉をキーワ
ードに、デンマークにおける若者支援のあり方を検
討します。

日 時：2019年6月15日(土)
14時(受付開始13時30分)
会 場：明治学院大学 白金校舎
本館2階 1255教室

1. 総 会 14時～14時45分
2. 特別講演会 15時～16時30分
講演者 坂口 緑 教授(社会学科)
講演テーマ 誰がパイプラインをつなぐのか
～デンマークの生涯学習政策か
ら考える～
3. 交流会 16時45分～17時45分
(パレットゾーン白金2階イン
ナー広場「さん・サン」)